

## 変わるモスクワ：最新地下鉄事情

西山 美久

1935年に開通したモスクワ地下鉄は都市交通網として発展し、今では市内から郊外までを結ぶ重要な交通手段となっている。多くの駅で豪華な装飾が施され、「地下宮殿」と呼ばれることもあり、定番の「観光地」とされている。以前は写真撮影が禁止されていたが、観光資源の一つとされているのか現在では駅のホームにインスタ映えする「撮影スポット」を示す表示があり、観光客が競い合うように写真を撮っている。

2013年には交通系ICカードが導入された。その名も「トロイカ」である。これ以外にも、マイクロチップを埋め込んだキーホルダーやプレスレットもあり、改札口を通過する際に読み取り部にタッチするだけで自動引き落としとなる。「トロイカ」は各駅の窓口で購入できるが、キーホルダーやプレスレットは一部の駅に設置されたお土産店でのみ販売されている。最近では観光客を意識してか、日本で大人気のチャブラーシカがプリントされた「トロイカ」やキーホルダーもあり、マニアにはたまらないグッズであろう。

モスクワ地下鉄では、ソ連時代の旧型車両が今でも現役で走っているが、とにかくうるさい。他方、導入が進められている新型車両では騒音が少なく、空調も

完備されており、乗り心地が良い。車内にはモニターが設置され、天気予報やニュースが常に流れている。またUSB電源が備え付けられ、タブレット端末を充電できるようになった。無料Wi-Fiも整備されている。日本よりも便利になっているのではと思うほど、車内環境は改善されている。

さて、地下鉄を利用する上で気になるのが言葉の壁である。しかし心配ご無用。サッカーワールドカップを機に車内アナウンスや駅の案内板がロシア語と英語の二言語になり、ロシア語を解さない観光客にとって利用しやすくなった。もっとも、駅窓口の係員はロシア語オンリーのようである…

モスクワ市は地下鉄の新線建設・延伸に注力しており、その影響で路線は複雑化している。観光客はもとより、地元のモスクワっ子にとってもその把握は難しい。そこで、運営元のモスクワ地下鉄公社はスマートフォン用のアプリを公開し、複雑な路線を簡単に確認できるようにした。このアプリを使うと、目的地までの行き方や移動時間も分かり、非常に便利である。

2018年には市内中心に位置する一部の駅で有料トイレ（69ルーブル）が設置された。以前は地下鉄にトイレが無く大いに悩まされたのだが、少しずつ改善されているようである。

モスクワにお越しの際には、進化する地下鉄を利用して「地下宮殿」巡りをするのはどうだろうか。（北海道大学）

